

不定詞と動名詞 <ページ5>

★最後に、微妙な立場のグループ④について、説明しておこう。

④【どちらもあるけど、意味が異なる】

この言葉が示しているとおおり、例えば stop という動詞で言うと、

I stopped **smoking**. / I stopped **to smoke**. ※smoke は「たばこを吸う」という意味の動詞
 どちらの英文も「あり得る」んだけど、それぞれの意味(和訳)を見てみると…

私は**たばこを吸うこと**を(吸うのを)やめた。 / 私は**たばこを吸うために**立ち止まった。
 と、まさに【意味が異なる】状態になるの。

グループ③の動詞のように、

I like **playing** the piano. } 私はピアノを弾くことが(弾くのが)好きです。
 I like **to play** the piano. } (ing形でも to + 動詞の原形でも、どちらでも同じ意味) とはならないの。

ちなみに try の場合は、

He tried **opening** the window. 彼は窓を開けてみた。(ちょっとやってみた、という感じ)
 He tried **to open** the window. 彼は窓を開けようとした。(何とか開けようと努力した、という感じ)
 微妙～！(笑) 違いはかなり微妙だけど、それでもやっぱり、言っている意味は「違う」よね。

(・▽・) <それから、なぜ、stop はグループ①、try はグループ②に、()付きで入っているのか？

中学校ぐらいの英語の問題に出てくる「頻度(ひんど)」=出てくる回数、見かける回数、で言うと、
 まず stop については stop + 動詞の ing 形 > stop + to + 動詞の原形 なの。

↑

数学に出てくる「不等号」ね！

つまり動名詞(動詞の ing 形)が後ろに来ていることのほうが多いの(私の感覚だとすごく多い)。

だから、「グループ①に入る」というイメージでも良いなという意味で、()付きで入れました。

そして、

try については try + 動詞の ing 形 < try + to + 動詞の原形 なの。

↑

こっちは不定詞(to + 動詞の原形)が後ろに来ていることのほうが多いの。

私の感覚だと圧倒的に多い。中学英語で、try の後ろに動名詞(ing 形)が来ているのは
 たぶん、ほぼ、見たことないです。

だから、「グループ②に入る」というイメージでほぼ良いなという意味で、()付きで入れました。

※ただし、これらの感覚(出てくるのが多いか少ないか)は、教科書の内容が変わると変わるので注意！

(^▽^)< stop = ほぼグループ①、try = ほぼほぼグループ②、というイメージね。

微妙な立場のこの2つの動詞も含めて、グループ①～④、どうぞ覚えておいてね☆

**** 最終まとめ ****

どうでしたか？ 不定詞(to + 動詞の原形)と動名詞(動詞の ing 形)の「関係」、つかめたかな？

- ・ どんな時に **to + 動詞の原形** = **動詞の ing 形** なのか
- ・ どんな時に **to + 動詞の原形** ≠ **動詞の ing 形** なのか(そして、どう「使い分ける」のか！)

いま何となくつかめていることを、頭の中でさらに整理できるようになるためには、

何よりも問題練習！ φ(. . .;) どんな時にどうしたらいいのか、「実践的な力」をしっかりつけてね♪

(問題を解いたら、1問1問、このプリントの中のどのことがらに当てはまるのかを確認してみてね。地道な積み重ねで力をつけよう！)